

マタタビ

「マタタビ」とは

マタタビ(学名:Actinidia polygama Planch. ex Maxim)はマタタビ科マタタビ属で、落葉ツル性の木本です。マタタビの語源は、アイヌ語のマタタムブに由来し、マタは冬、タムブは亀の甲の意味で、虫えいの果実を意味するそうです。

和歌山県では標高200~800mの谷沿いの山林に多く自生しています。



■花の特徴(雄株と雌株の見分け方)

雄株と両性花をつける雌株があります。

雄株:多数の雄しべと退化した雌しべをもつ雄花が葉腋に1~3個つきます。

雌株:花弁がなく多数の花柱が開いた雌花、または、花弁、雄しべ、雌しべを備える両性花が葉腋に1個つきます。

■花の時期

花の時期は、6-7月頃です。

■利用

果実 →マタタビ酒 (主に虫えい果を使用)
マタタビミフシという虫の寄生で虫えい果ができます。
〈「木天蓼(もくてんりょう)」といわれる漢方薬〉
→塩漬け(通常の果実を使用)

*全国的には年間10t前後生産、主な産地は、茨城県、長野県など。
*和歌山県では、少量、山取され、販売所やインターネットで販売。

葉 →健康茶(葉を天日で乾燥させて軽く煎る)
(栄養価が高くビタミンCが緑茶の10倍程度)

枝 →ペット(猫)用品(枝をおもちゃにしたり、枝や実を粉にして餌に混ぜる)



栽培ごよみ

栽培形態	年数	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
露地栽培	1年目			挿し木						元肥・柵設置			定植
	2年目		定植				除草						
	3年目		施肥				除草			間伐・剪定			
	4年目以降		施肥						収穫				

栽培適地

寒さには比較的強い植物です。

日当たりが適当にあり、水はけのよい、適潤な肥沃地がよいようです。

林縁部などでも良く育ちますが、ツルが他の木に沿って高く上がってしまえば収穫がままならないので、柵を作ってツルをはかせます。そのため、栽培には柵が必要になってきますので、その設定が容易な場所を選んで下さい。

栽培方法

苗木づくり(挿し木)

○挿し木に用いる親株

- ・実が大きく、虫えい果を付けやすい優良な系統の株を選んで育成することが大切です。
- ・雄株だけを植えても実はないので、雌株(両性花)を選んで増殖することが必要です。

○挿し木時期

- ・3~6月にできますが、開葉前(3月頃)が容易です。

○挿し穂の作り方

- ・若い充実した枝を採取し、3~4芽程度付けて長さ15cm程度に切断します。
- ・開葉後の挿し穂では、葉を半分に切り落とすと良いでしょう。
- ・発根促進剤を使用してもしなくても発根率は変わりありません。
- ・冬の期間に枝を採取した場合は、春までビニールに入れて冷蔵庫で保管し、挿し付けることもできます。

○挿し付けと管理

- ・挿し床は鹿沼土と砂を9:1~3を目安に混合するといいでしょ。
- ・挿し付けは育苗トレイをしますが、ポットに直接挿し付けることもできます。
- ・早ければ約3週間で発根します。
- ・挿し付け後、高温と乾燥を避け、土の乾燥が進んだ時だけ灌水するようにします。



植え付け

○定植時期

- ・定植時期は落葉後から翌春の芽が動き出す前が適期です。地面が凍る厳冬期は避けて下さい。

○植え付け場所

- ・半日陰で風当たりの少ない山地や遊休農地等を利用するのが良いでしょう。
- ・根は浅根性なので、乾燥地、排水不良地は避け、有機質が多く、保水性の良好な土壤の場所を選びます。
- ・定植地に施肥する場合は、前もって堆肥を2t/10a程度入れ、一度広く耕耘しておきます。

○植え付け方法

- ・植え付け間隔は、2~3m×3m(100~150本/10a)を基準に、植え穴を掘って植栽します。また、密植では苗間50cm程度とし、最終的には40本/10aに調整する方法もあるようです。

栽培管理

○除草等

- ・定植後1,2年は除草をこまめに行い、支柱を用いてまっすぐ伸びるように導きます。
- ・主な管理・防除作業はキウイフルーツに準じており、耕地では棚を用いて栽培します。



苗木づくりの試験から

試験1: 挿し木の時期・発根促進剤・枝齢の効果(2005)

①各月別の発根率の比較

3月(8割以上)が最も高く、6月(5~6割)、5月(5割)となりました。

②発根促進剤(成分 α -ナフチルアセトアミド)処理の効果

3月の発根促進剤の有無による試験では、処理による効果は見られませんでした。

③枝齢による比較

5月、6月の枝齢による試験では、発根率においては有意な差はありませんでした。

- ・3月が発根しやすく最適時期
- ・発根促進剤は不要
- ・当年枝でも一年枝でも利用可

表1 マタタビ挿し木試験(時期、発根促進剤、枝齢)

時期	発根促進剤 有無	挿し穂 枝齢	供試 本数	発根 本数	発根率 (%)
3月	有	一年枝	35	29	83
	無	一年枝	35	32	91
5月	無	当年枝	35	19	54
	無	一年枝	35	18	51
6月	無	当年枝	35	19	54
	無	一年枝	21	13	62

注) 時期は何れも各月の中旬
用土は、鹿沼土：砂=3：1

試験2: 挿し床の種類・腐葉土(有機物)の効果(2007)

①挿し床の種類比較

育苗箱とポットのどちらに挿しても発根率は高く、有意な差はありませんでした。

②腐葉土の効果

用土に腐葉土(有機物)を加えても発根に影響なく生育も良かったです。

表2 マタタビ挿し木試験(ポットの利用、用土の違い)

ポット 有無	挿し床	供試 本数	発根 本数	発根率 (%)	平均芽の伸長 (cm)
あり	鹿沼土：砂=15：1	35	33	94	3.6
	鹿沼土：腐葉土=4：1	35	34	97	4.6
	パーミキュライト	35	26	74	3.6
合計・平均		105	93	89	3.9
なし	鹿沼土：砂=15：1	34	26	76	3.0
	鹿沼土：腐葉土=4：1	34	29	85	5.9
	パーミキュライト	34	24	71	3.8
合計・平均		102	79	77	4.2

注) 2007年3月14日挿し付け

- ・ポットの直挿し可。
- ・挿し付け時から用土に腐葉土を入れても大丈夫。

試験3: 苗木の施肥の種類別効果(2007)

①施肥の種類別の比較

濃いめの液体肥料や化成肥料が特に生長良好です。

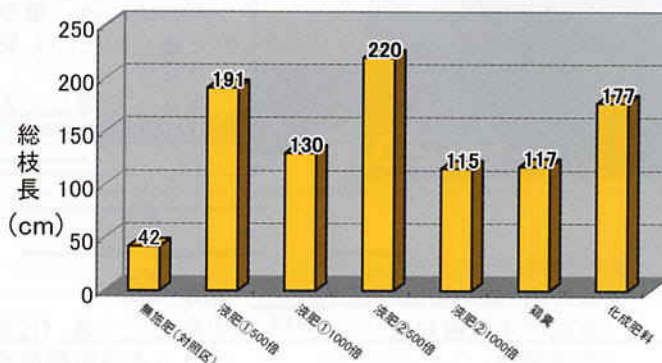


図 施肥の種類別の総枝長

注) 使用した苗木: 3月に挿し付けて発根した苗木を6月に植えた。
ポット: 径12cm×H10cmビニールポット

各試験区供試数: 24

液肥① → N:P:K=6:6:6 (6~10月週1回 100ml施肥)

液肥② → N:P:K=7:4:4 (6~10月週1回 100ml施肥)

鶏糞 → N:P:K=2.4:6.5:3.3 (用土10l当たり90g)

化成肥料 → N:P:K=10:10:10 (用土10l当たり45g)

生長量調査: 10月

収穫

○果実の収穫

- ・定植後4～5年目から本格的な収穫が見込まれます。
- ・生長がよいところでは、30～50kg/a程度の収穫が期待できます。
- ・収穫時期は8～9月上旬の落下前におこなうのが良いでしょう。

○収益

- ・販売価格: 果実1,500～3,000円/kg
- ・販売先: 市場、産品販売所等

○葉や枝の収穫

- ・健康茶などに使用する葉は最盛期に摘みます。
 - ・ペット(猫)用の枝の収穫は、葉が落ちて芽が出るまでの冬季におこないます。
- < *利用方法等は専門書やインターネットの情報を参考にして下さい。 >

マタタビっておもしろ～い!



白化したマタタビの葉



天日干しの葉



マタタビ酒

花の頃には、葉が白く染まるので遠くからでも見つけやすくなります。

前もって探しておくのと実を採るのも効率的です。



ペット(猫)用の枝

参考資料

「木の国 森の資源の活かし方」	和歌山県	2006
「北国の小果樹栽培」	中島二三一著 社団法人北海道農業改良普及協会	1997
「特産果樹」	(社)日本果樹種苗協会	2006

和歌山県農林水産総合技術センター林業試験場

〒649-2103 和歌山県西牟婁郡上富田町生馬1504-1
TEL 0739(47)2468 FAX 0739(47)4116

HPアドレス <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070109/gaiyou/006/006.htm>

発行:平成20年3月